

6月



カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに ～希望に錨を下ろして～

必要とする人たちのために

神学生 アントニオ・ソアレ

東ティモールから

私の名前は、アントニオ・マリオ・ダ・コスタ・ソアレスといえます。東ティモールの民主共和国で、生まれ育ちました。私の家は、大家族です。両親と、6人の兄弟がいます。

中学校を卒業した後に、生まれ故郷であるウアラリから、デイリに移りました。デイリは、ティモール島の北岸に位置する、東ティモールの首都であり最大の都市です。デイリにあるイエズス会が運営するコレジオ・デ・サン・ホセ（聖ヨセフ高校）

に進み、卒業しました。この学校で、私はイエズス会と出会い、最終的に2011年に入会しました。

2013年に、デイリにあるマドンナ・デッラ・ストラーダ修練院に入会し、2015年4月に初誓願を立て、「イエズス会における清貧、貞潔、従順」を神さまに捧げました。その後すぐに、スリランカの最大都市コロンボに派遣され、1年間の予備プログラムで学びました。そして、インド西部のグジャラート州アフマダーバードに3年間派遣され、聖ザビエル大学で心理学を専攻して学士号を取得しました。その後、2020年に、再びインドのチェンナイにあるマドラス大学のサティヤ・ニラヤムに派遣され、2年間哲学を学びました。



貧しいやもめと同じことを

私のミッションにふさわしい場所を見定める中で、イエズス会の東ティモール地区長が訪れた際に口にした、日本管区のことを思い出しました。彼は、聖書に出てくる、それを必要とする人たちのために、「乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れた」（マルコ12:44）貧しいやもめになぞらえて、日本管区の寛大さを強調していました。日本管区は、人材が不足しているにもかかわらず、浦善孝神父と村山兵衛神父の2人のイエズス会士を派遣し、東ティモールを援助しています。浦神父は2012年から、村山神父は聖イグナチオ教会で叙階した2020年からです。この寛大な行いが、同じことをしたいという炎を私の中に燃やしました。さらに、イエズス会士として、聖フランシスコ・ザビエルやペドロ・アルペ神父、その他多くの偉大なイエズス会宣教師たちが力を尽くした土地に来て働くことは、私にとって名誉なことです。だから、私は日本に来ることにし

ました。

聖イグナチオ教会で中間期を過ごすことになったのは、全く予想もしていなかっただったので、驚きでした。聖イグナチオ教会にいられるというのは、私にとって幸せなことです。というのも、以前に日本語を勉強していた時にお世話になった方々と再びつながり、協力して働くことができるからです。しかしながら、ここは小さな小教区であり、多くの責任が伴うため、挑戦がとても求められる仕事です。加えて、私の日本語はまだ上達が必要で、とはいえ、新しい人々と出会い、他者に奉仕し、学び成長し続ける機会が与えられるので、私の養成におけるこの新しい章を始めることにわくわくし、希望を感じています。

教会報 MAGIS 6月号

- † 【聖年】 聖歌・ロゴマーク・マスコット P2～3
- † 教会行事報告（4月～5月） P4
- † 【聖年】 聖年をより深く理解し、希望をもって過ごす糧として P5
- † **Family of St. Ignatius** ～スペイン語圏から～ P6
- † 第267代教皇 レオ十四世誕生！ P7

【6月の共同祈願】

イエスさまがご昇天された後、
神の国の実現が私たちに託されています。
自分の使命・ミッションを果たせるように
聖霊よ、豊かに注いでください。

【ミッション 2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。



〈希望は欺かない〉
聖歌・ロゴマーク・マスコット

2025年聖年では、公式の聖歌、ロゴマーク、マスコットが制定されています。「希望の巡礼者」というテーマがどのように表現されているのか、今回は、それぞれに込められている意味を説明します。

聖歌

「しばしば、歩いていると、今の気持ちをまさに表すような歌が浮かんでくることがあります。これは、復活した主の光に向かう巡礼の旅である信仰生活にも当てはまります。聖典は歌に彩られており、詩篇はその顕著な例です。イスラエルの民の祈りは歌われるために書かれ、主の前に示される多くの人間の営みは歌の中にありました。教会の伝統はこれを継承し、音楽と歌を典礼の息吹としてきました。聖なる扉への人々の巡礼によって表現される聖年は、そのテーマである『希望の巡礼者』を表現する方法のひとつとして歌を使っています」(2025年聖年公式サイト)。

公式聖歌には、聖年の

テーマ「希望の巡礼者」の多くの要素が織り込まれています。「希望の巡礼者」という言葉は、イザヤ書の内容に呼応しており、その言葉が聖歌の中に散りばめられています。「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。あなたは深い喜びと、大きな楽しみをお与えになり、人々は御前に喜び祝った」(イザヤ40:1-2)。その光とは、人となられたイエスの光であり、イエスは御自身の御言葉によって、あらゆる民族と国民を集められます。預言者イザヤは、人々が、神の言葉の光の中に集い、散り散りになっていった道から帰ってくる姿を繰り返し示しています。「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなた

希望の巡礼者
～2025年「聖年」の賛歌～

作詞：Pierangelo Sequeri
作曲：Francesco Meneghello
訳詞：日本カトリック司教協議会

希望の光、神よ、
あなたに歌います。
尽きぬいのちの泉、
あなたを信じます。

1. 神のことばはともしび、
すべての人を照らす。
散らされた人々は、
み子のもとへと集められる。
2. 神はすべてを見守り、
希望の朝を告げる。
天地は新たにされ、
いのちの霊に満ちあふれる。
3. 目を上げ、ともに歩もう、
神は再び来られる。
人となられたみ子は、
喜びと希望への道。

の上に輝く。見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で、主の栄光があなたの上に現れる。国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射し出でるその輝きに向かつて歩む。目を上げて、見渡すがよい。みな集い、あなたのもとに来る。息子たちは遠くから、娘たちは抱かれて、進んで来る。起きよ、輝け。あなたがたの光が来て、主の栄光があなたがたの上に昇ったからだ」(イザヤ60:1-4)。

日々の信仰生活という巡礼の一步一步を、キリスト者はいのちの泉に頼って歩みます。「旅の途中で自然に生まれる歌は、神に向けられたものです。それは、自由を得て、支えられるという希望に満ちた歌です。すべてのものの源である方の耳に届くという希望に満ちた歌なのです。神こそが、生き続ける炎として希望を燃やし続け、旅する民の歩みに活力を与えてくださるのです。：天におられる父は、忍耐強く、優しく、子どもたちの巡礼を見守り、すべての人の道標となるみ子イエスを指し示しながら、すべての人のために道を大きく開いてくださいます」(2025年聖年公式サイト)。



▲YouTube
「希望の巡礼者」

ロゴマーク

2025年聖年のロゴマークでは、地球の四方から集まってきた全人類が、抱き合って連帯と友愛を示しています。先頭の人物は、抱いている信仰と、決して捨て去ることができない希望のしるしとして、十字架をつかんでいます。

下に押し寄せる波は、人生の巡礼の旅がいつも穏やかな進みであるとは限らないことを示しています。十字架は長く伸びて、希望の象徴である錨となつて波に下りています。「わたしたちはキリストにおいて生きて、罪と恐れと死に打ち勝つことができるようにする恵みである希望に、しっかりと根を下ろしているからです」(大勅書「希望は欺かない」25)。巡礼の旅は、個人というよりむしろ共同体として、十字架へと向かつていく動きです。この十字架は、静的ではなく動的なものであり、人類を捨て置かず、人類に向かつて身を伸ばして、その存在の確かさと希望を与えます。

教皇レオ十四世は、聖年



▲ 2025年聖年ロゴマーク（日本語）

マスコット

「ルーチェ」は、2025年聖年のマスコットキャラクターです。「ルーチェ」は、イタリア語の「光」です。デザインしたイラストレーターは、このキャラクターに若者のポップカルチャーを反映させ、希望と歓迎のメッセージを込めています。

「ルーチェ」は、典型的な旅人の装いをした巡礼者です。風雨から身を守る黄色いパーカーを羽織り、希望を表す緑色のブーツは、歩んできた道を物語るように汚れ、首には十字架を掛け、手には巡礼の杖を持っています。



▲ルーチェと仲間たち

特に印象的なのは、強い光を放つ「ルーチェ」の瞳です。その瞳は、すべての巡礼者の心に芽生える希望を表現しています。瞳の中には、貝殻が描かれています。貝殻は、聖ヤコブ、そしてサンティアゴ巡礼の象徴となっています。スペイン政府観光局によると、かつてサンティアゴ・



▲ルーチェ

デ・コンポステラにたどり着いた巡礼者たちが、海まで歩いて貝を手に入れたのが、その由来だそうです。現在でも、巡礼コースの順路や巡礼者用の宿泊施設などの目印として、貝殻が配されています。

「ルーチェ」は、平和と兄弟愛という普遍的なメッセージを思い起こさせる存在です。新しい世代にも訴えかけ、世代間の対話を促進するということ、より広い意味を持つています。このマスコットは、聖年だけではなく、共同体、歓迎、そして、分かち合いの象徴でもあるのです。

当教会では、ベトナムの青年たちによって作られた等身大の「ルーチェ」が、主聖堂前室の巡礼スタンプ台に置かれ、巡礼に訪れる方々を笑顔で出迎えています。

教会行事

4～5月の主な教会行事をご紹介します。

●初聖体

4月27日(日)10時のミサで初聖体が行われました。22名の子どもたちが主司式の柴田潔神父よりご聖体をいただきました。子どもたちの感想をお届けします。

僕は自分で初聖体を受けると決めました。神さまが心の深くに寄り添ってくださると思ったからです。そして、いつも喜んで働いて、初聖体の式でも侍者としてそばにいてくれた姉のように、神さまのもとと近くで働く侍者になりました。



「ご聖体は神さまに守られている特別な感覚がしました。神父様やリーダーたちが最後の心の準備まで教えてくださったお陰だと思いました。家族と一緒に喜んで、大きなお恵みに感謝をしました。神さま、「私と一緒にいて、手伝いをして！」と言って笑ってますか？写真の中の僕もうれしそうに笑っています。」

「私はずっと初聖体に憧れていました。イエスさまのご聖体をいただくという事、どのような事か知りたかったのです。初聖体ミサでは、第一朗読のお手伝いをし気持ちよく読みました。そして祭壇を囲んで、初めてご聖体をいただく憧れの瞬間がきました。柴田神父様からご聖体をいただき、「アーメン」と言ったら、入ると、今までよりもイエスさまを近くに感じられる気がしました。特別なお恵みをいただけた事に感謝して、これからイエスさまに喜んでいただけたような子どもでいたいと思いました。」

●歓送迎会

ありがとうございました！
ようこそ、イグナチオ教会へ

5月11日(日)11時15分よりヨセフホールにて歓送迎会が開かれました。退任される中村健三神父、新任のジェリー・クスマノ神父(共に助任司祭)、シスター・デイン・グエン・ゴック・トウエン(アン・ベトセンター)、東ティモールからのアントニオ・ソアレス神学生を迎え、国際色豊かな立食形式で和やかな歓談のときを持ちました。

高祖敏明主任司祭より

中村神父様。この1年間ミサ・告解を含めさまざまなお働きありがとうございました。シスター・トウエン(聖マリア御心会)はベトナム語圏の人々に司牧的配慮をするアン・ベトセンターで週末お勤めいただきます。ソアレス神学生には、イエスさまの中間期生としてさまざまな司牧の体験を積んでいただきます。

クスマノ神父様と私は、ほぼ同時期に哲学を勉強しイエス会から教育関連に進むように言われ、クスマノ神

父は心理学を専攻されました。SJハウス、石神井修道院で院長を歴任。霊的な指導者として活躍された後、この度乞うて当教会にお迎えしました。

―ご挨拶―
中村健三神父

「13カ月間、皆さんからたくさんのお苦しみを伺い、それを担っていく力の恵みに支えられました。お互いに頑張りましょう。ありがとうございました」。担当された壮年会から感謝の言葉と花束贈呈がありました。

ジェリー・クスマノ神父

「盛大なお祝いをしていただき恐縮です。皆さんの力に支えられ、できる限りの力を尽くして参ります。どうもありがとうございます」
アントニオ・ソアレス神学生「2年半前に来日しました。日本語は、まだ勉強中です。中間期生として、今まで以上に頑張りたいです。どうぞよろしくお願いします」

シスター・トウエン

英語で挨拶されました。「ありがとうございます。温かい歓迎に感謝しております。今後こちらで皆さまと一緒により良く働けることを望みます。どうぞよろしくお願いします」

信徒代表より

「今日は母に感謝する日でもあります。神父、シスター、神学生に於かれましても『ともに感謝』と言う言葉があてはまると思います。信徒の皆さまも、今年度よろしくお願いたします」

会の中盤、小学生会から約30名の子どもたちがサプライズの歌『フレンズ』を披露し、感謝の気持ちを表しました。



▲右からシスター・トウエン、ソアレス神学生、クスマノ神父、中村神父、高祖神父



〈希望は欺かない〉

聖年をより深く理解し、 希望を持つ、よびこみとして

教皇フランシスコの大勅書「希望は欺かない」をテキストに、シスター品川ヨシ子によるオンライン講座(全6回)が2025年1月から4月に開かれました。

希望の巡礼者

「教会は、主イエスを『わたしたちの希望』(一テモテ一：1)として、いつでも、どこでも、すべての人にのべ伝える使命をもっています」(大勅書)。洗礼を受けた人は、希望のあかしびとでないといけません。わたしたちの人生も巡礼です。神に向かって歩いていきます。聖年の巡礼は、心を整えて、祈り、キリスト教信者としての使命を考えながら味わってみるよい機会です。

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」ということを。希望はわたしたちを欺くことがあります。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」(ローマ5:3)

贖いの羊

5)パウロは、神さまを本当にあてにしています。社会が希望を失っているからといって、わたしたちも希望を捨ててはいけません。神さまの愛に素直に応え、他者のために惜しみなく自分を捧げれば、教会は力を得ます。

神の恵みがいつも先にあります。祈りの中で、イエスがわたしたちに注いでくださる愛が分かり、希望をいただいていきます。希望は、明るくいいきとしたエネルギーとしてほとばしります。それが爆発的になったのが初代教会です。聖霊降臨によって弟子たちから力がでて、宣教が広がっていききました。「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明でき

るように備えていなさい」(一ペトロ3:15)。喜びであるイエスをいつでもあかしできれば、それはうれしいことです。

「主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」(ルカ4:18-19)。キリストは、宣教活動のはじめに恵みの年が実現したことを宣言し、贖いの羊となられたのです。戦争という惨劇、いのちを継承する意欲の喪失、命を他者が取り上げてしまう死刑、誰もそばに来てくれない人がない病者、希望を失っている若者、生きる権利を失っている難民、高齢者という宝を社会に生かすこと、貧しい人への無関心。大勅書で教皇からなされている問い掛けを深めないといけません。自分の心の中に、祈りの中に、取り込まれて行かないと分らないと思います。わたしたちはみな、地球に「寄留し、滞在する者にすぎない」(レビ25:23)のです。それなのに差があります。不公平です。

希望に根を下ろす

なぜキリスト教信者が増えないのでしょうか。周りの人たちにとって、わたしたちの生きざまが、喜びを感じさせるものとはなっていないのかもしれない。わたしたち自身が変われると良いのでしょうか。命よりお金が大切、お金のためには何でもする、という世の中になっていきます。「死も、命も、…他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ローマ8:38-39)。パウロはここまで到達していますが、わたしたちは人間の世界の魅力に囚われていて、この世のものから誘惑されます。

死んだらまっすぐ天国に行くわけではありません。足りなさや弱さを神さまのあわれみによって救われ、誰かの執り成しが必要となります。教皇フランシスコの最後の言葉は、「すべてを委ねます」だったそうです。本当にすごいと思います。人は大したことはないことで苦

しみますが、神さまは全部ゆるしたい、放蕩息子の父親のように、天で受け止めたいと思って、待っています。

いまは、希望があるようではないと言えます。決められた生き方だけがちゃんとした生き方とされ、少しでもずれると希望がなくなってしまう。どうやって生きたら、幸せになるのか。でも、いろいろな希望があり、本当の希望があります。「わたしたちは、キリストにおいて生きて、罪と恐れと死に打ち勝つことができるようにする恵みである希望に、しっかりと根を下ろしているからです。…今より、希望に引き寄せられていきましょう。希望が、わたしたちを通して、それを望む人たちに浸透していきますように。わたしたちの生き方が、彼らに『主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め』(詩編27:14)と語りかけるものとなりますように。主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされますように」(大勅書25)。



Family of St. Ignatius

～スペイン語圏から～

オラ(こんにちば)!という挨拶で、日曜日が始まります。

スペイン語共同体は、スペイン語を母国語とするスペインや中南米諸国出身の方々の多様性に富んだ明るく楽しい共同体です。ユーモアたっぷりのセントロ・ロヨラのシスター・マルセラがお世話してくださっています。

私は日本出身ですが、スペイン語ミサのコーラスグループに入れていただき、毎週コーラスのご奉仕をさせていただいています。毎週、御ミサ前に和氣あいあいと、

また真剣に、ギターに合わせて練習をしています。スペイン語共同体の中に居ると、喜びを互いに喜び、喜びが何倍にもなります。悲しい時は心を寄せ合って、互いに慰め合います。

皆、バックグラウンドは違いますが、同じ信仰の道を共に歩くかけがえのない友人で、教会を家とする大切な兄弟姉妹です。喜びの中心にイエズス様が居られ、悲しみの時にもイエズス様が寄り添ってくださっています。アモール(愛)という言葉を生きたきとを感じるスペイン語共同体です。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(6月5日開催)

- 5月31日(土)教会大掃除が行われました。44名の外国語圏の皆さんと協働し、総勢137名で私たちの家である教会を清掃しました。ご協力くださった方々やお祈りで支えてくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。これからも私たちの教会として大切に使用してまいります。
- 同日、5月31日(土)パントリーの清掃と不要品の整理が行われました。もし、活動グループで使っているものが見当たらない場合は、事務室へ7月末日までご連絡ください。
- 菊地功枢機卿を装ったフェイスブックで寄付を募るものがありました。どうぞご注意ください。
- 主に教会学校が夏季に使ってきた雙葉山荘(長野県上田市)を今年10月13日(月・祝)に現地で感謝のミサを捧げて雙葉学園にお返しすることになり、双方で合意に達しました。今まで山荘を使ってきた方々、運営を多方面で支え、その準備や片付け、修繕等を行ってきた関係者の方々に感謝申し上げます。また、今まで貸してくださった雙葉学園にも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

●「聖年」オンライン講座開講のお知らせ●

テーマ:「聖年とみことば」

講師:当教会司祭とシスター

開催期間:2025年4月～2026年1月

開催形態:YouTube配信

開催概要:全9回(8月休講)、毎月中旬配信

配信済み

第1回 高祖敏明神父、第2回 ハビエル・ガラダ神父

配信予定

第3回 6月21日(土)配信予定
ボニー・ジェームス神父第4回 7月19日(土)配信予定
グエン・タン・ニャー神父

●タイムカプセル●

聖イグナチオ教会の前身、テレジア教会から100周年に当たる2036年に開封するタイムカプセルを5月18日(日)、主聖堂地下室に収めました。タイムカプセルには信徒からの一言メッセージ、各活動グループの色紙の他、前のタイムカプセルに入っていたもの、現聖堂献堂から今日までを振り返ることができる品々を新たに収めました。

●金婚式・銀婚式を迎えられる方々へ●

聖イグナチオ教会では、当教会所属の信徒で今年結婚生活50周年、25周年をお迎えになる方々のために、パチカンが発行する「金婚式・銀婚式祝福記念証書」を授与できるように手配させていただいています。

ご希望の方は、案内チラシをご覧ください。申込書に必要事項を記入して、教会事務室に提出されるか、郵送またはFAXにてお申し込みください。

申込締切は 8月1日(金)(厳守)

祝福記念証書は11月16日(日)10時、結婚感謝ミサにおいて授与される予定です。

●財務報告●

・5月25日(日)「世界広報の日の献金」1,243,795円は雑誌、インターネット、テレビなどの広報媒体を用いた福音宣教に使われます。

●献血のお知らせ●

開催日:6月22日(日)

場所:ヨセフホール

受付時間:10:00～10:30、12:00～16:30

日本赤十字社による献血を行いますので、ご協力ください。献血可能年齢は16～69歳です。

65歳以上の方の献血については、献血頂く方の健康を考慮し、60～64歳の間に献血経験のある方に限ります。詳しくはチラシ、QRコードからご覧ください。



当日の流れ



献血にあたっての「お願い」

●お米の寄付のお願い●

カレーの会・四ツ谷おにぎり仲間では、生活に困っている人たちへのカレー・おにぎりの配布に、毎週50kgほどのお米が必要ですが、そのお米、特に無洗米が不足しています。皆さまのご寄付をお待ちしています。ご協力をよろしくお願いいたします。

第267代教皇 レオ十四世誕生！

2025年5月8日、バチカンで行われたコンクラーベにおいて、ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿(69歳)が第267代教皇に選出され、「レオ十四世」を名乗りました。

新教皇レオ十四世は、聖アウグスチノ修道会出身者として、またアメリカ合衆国出身者としても史上初の教皇となりました。長年ペルーでの宣教活動に携わり、教皇庁の要職を歴任されました。

選出直後、教皇はサンピエトロ大聖堂のバルコニーに立ち、ローマと世界(ウルビ・エト・オルビ)に向けて「あなたがたに平和があるように」と最初の言葉を述べました。武器を持たない平和、謙遜で忍耐強い平和を願い、神の愛がすべての人に注がれていること、さらに、対話と一致を大切にし、すべての人を受け入れる宣教的な教会となることを願うと語り、世界の平和のために祈るよう呼びかけました。戦争や分断が続く中、キリストの光が必要であり、対話と出会いを通じて橋を架けることが重要であると強調しました。

教皇として歩まれる道に、神の祝福と聖霊の導きが豊かに注がれますように、世界に希望と平和をもたらすよう、世界中の信徒とともに祈りを捧げてまいりましょう。



Leo PP. XIV

教皇レオ十四世
(ロバート・フランシス・プレヴォスト)

略歴	
1955年9月14日	アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ生まれ
1977年	聖アウグスチノ修道会入会
1981年	終生誓願宣立
1982年6月19日	司祭叙階(ローマ)
1984年 ~	ペルーで宣教・司牧に従事
2001年~2013年	同会総長に選出され、2期歴任
2008年11月	長崎にて同会司祭トマス金鏑次兵衛を含む「ペトロ岐部司祭と187殉教者」列福式参加のため来日
2014年11月3日	教皇フランシスコよりペルー・チクラヨ教区使徒座管理者に任命。司教に上げられる
2023年~	教皇庁司教省長官に任命、ラテンアメリカ委員会委員長などを歴任
2023年9月30日	枢機卿叙任
2025年5月8日	教皇に選出され、レオ十四世と名乗る

7 月の典礼と行事

1 (火)	福者ペトロ岐部と 187殉教者の記念日	
2 (水)		『社会問題とカトリック教会の考え 2025年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール シノドスの教会 - 誰も排除されない、誰とも共に歩む教会を目指して - 性的マイノリティの教会における経験 - その方々の声を聴こう - 講師：宇井彩野氏（作家）
4 (金)	初金曜日	
5 (土)		2024 年度合同追悼ミサ 10:00 主聖堂
6 (日)	年間第 14 主日	
9 (水)		傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
13 (日)	年間第 15 主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 受付 9:30 ~ 日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 年間テーマ「旅する神の民とミサ〜喜びと希望を共に！」 今回テーマ「開祭」 講師：宮越俊光氏 13:00 ヨセフホール
16 (水)		クリプタに安置され 7 月に命を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2025 年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール シノドスの教会 - 誰も排除されない、誰とも共に歩む教会を目指して - 受刑者・死刑を宣告された人々からの声 - 教誨師が伝える彼らの声を聴こう - 講師：ハビエル・ガラルダ神父
19 (土)		新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
20 (日)	年間第 16 主日	幼児洗礼式（第 1 回） 10:00 ミサ
22 (火)		聖イグナチオの取り次ぎを願う 9 日間の祈り（7 月 30 日まで）
23 (水)		傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
27 (日)	年間第 17 主日	ロヨラの聖イグナチオの記念ミサ 祖父母と高齢者のための世界祈願日 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール
31 (水)	ロヨラの聖イグナチオの記念日	

* マジス 7 月号は 7 月 13 日 (日) 発行予定です。

8 月の典礼と行事

1 (金)	初金曜日	祈りの集い 19:00
3 (日)	年間第 18 主日	日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
6 (水)	主の変容の祝日	日本カトリック平和旬間 (6 日 ~ 15 日)
10 (日)	年間第 19 主日	教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 受付 9:30 ~
15 (金)	聖母被昇天の祭日	平和祈願ミサ 7:00 10:00 12:00 (英語) 13:30 (スペイン語) 18:00 19:30 (ベトナム語)
17 (日)	年間第 20 主日	日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
	8 月 18 日 (月) ~ 30 日 (土)	主聖堂、マリア聖堂天井の火災報知器更新工事を行います。 この期間、主日のミサ時間以外主聖堂は閉鎖します。 平日のミサはマリア聖堂で行います。ご協力をお願いします。
20 (水)		クリプタに安置され 8 月に命を迎える方々のためのミサ 12:00
24 (日)	年間第 21 主日	日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
31 (日)	年間第 22 主日	

* マジス 8・9 合併月号は 8 月 10 日 (日) 発行予定です。

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：高祖 敏明
 助任司祭：ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭：ジェリー・クスマノ
 ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 神 学 生：アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレス
 シスター：マルセラ・ロサス
 フロール・フロレーセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00/19:30 (Việt Nam)
日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) / 13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel

12:30 (Português) / 16:00 (Polski)

【月の第 2 第 4 日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

『マジス』へのご意見・ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)〒102 - 0083
千代田区麹町 6 - 5 - 1
TEL 03 - 3263 - 4584
FAX 03 - 3263 - 4585
<http://www.ignatius.gr.jp>Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多
数のリンクをまとめて表示して
いるツールのことです。この QR
コードを読み取ると教会ホーム
ページ、教会ガイド、Twitter、
Facebook、Instagram、
YouTube へアクセスできます。